

人権アラカルト

すべての人が、幸せになる権利を持っています。

人権について、身近なこと、小さなことから、始めませんか？

生物の命を守るオゾン層

「環境問題」も人権課題であることを知っていますか。

地球を覆うオゾン層は、太陽からの有害な紫外線を防ぎ、わたしたち生物を守る役割を担っています。そのオゾン層に穴が開いたように見える「オゾンホール」の存在を初めて発見したのは、日本の南極観測隊です。1982年のことです。

オゾン層を破壊してしまう代表的な物質は、自然界には存在しない「フロン」です。フロンは、「フルオロカーボン」というフッ素と炭素の化合物の総称で、このうち塩素も含む「クロロフルオロカーボン」は1928年に米国で開発されました。人体に毒性が小さいといった性質を有していることから、エアコンや冷蔵庫、スプレーの噴射剤などに使用されてきました。

オゾン層の回復に向けて、1980年代半ばから、国際的な取り組みが始まりました。まず、オゾン層の保護を目指して国際協力を進めるための国際ルール「ウィーン条約」が1985年に採択され、この条約の下での具体的な対策に関する取り決めが決定されたのが「モントリオール議定書」です。

その結果、世界的にフロンの回収が進み、大気中に放出されるオゾン層破壊物質の量は大幅に減少しましたが、すぐにオゾンホールがなくなるわけではありません。オゾン濃度が1980年の水準まで戻るのは、南極は2066年頃、北極は2045年頃と予想されています。

人類が生存できる地球環境を保全することは、「人間が人間らしく幸せに生きていく」ことに繋がっていて、人権と密接に関わっています。

地球上のあらゆる人々の人権に配慮し、多様な人々と共存する社会が求められている中、私たち一人ひとりが地球環境についての現状や課題について、正しい理解と認識を深めることが必要になってきています。

未来の地球を守るために、未来の子どもたちのために、私たち一人ひとりの小さな行動が集まり、大きな力となり得ることを信じて、それぞれができることから始めなければなりません。

